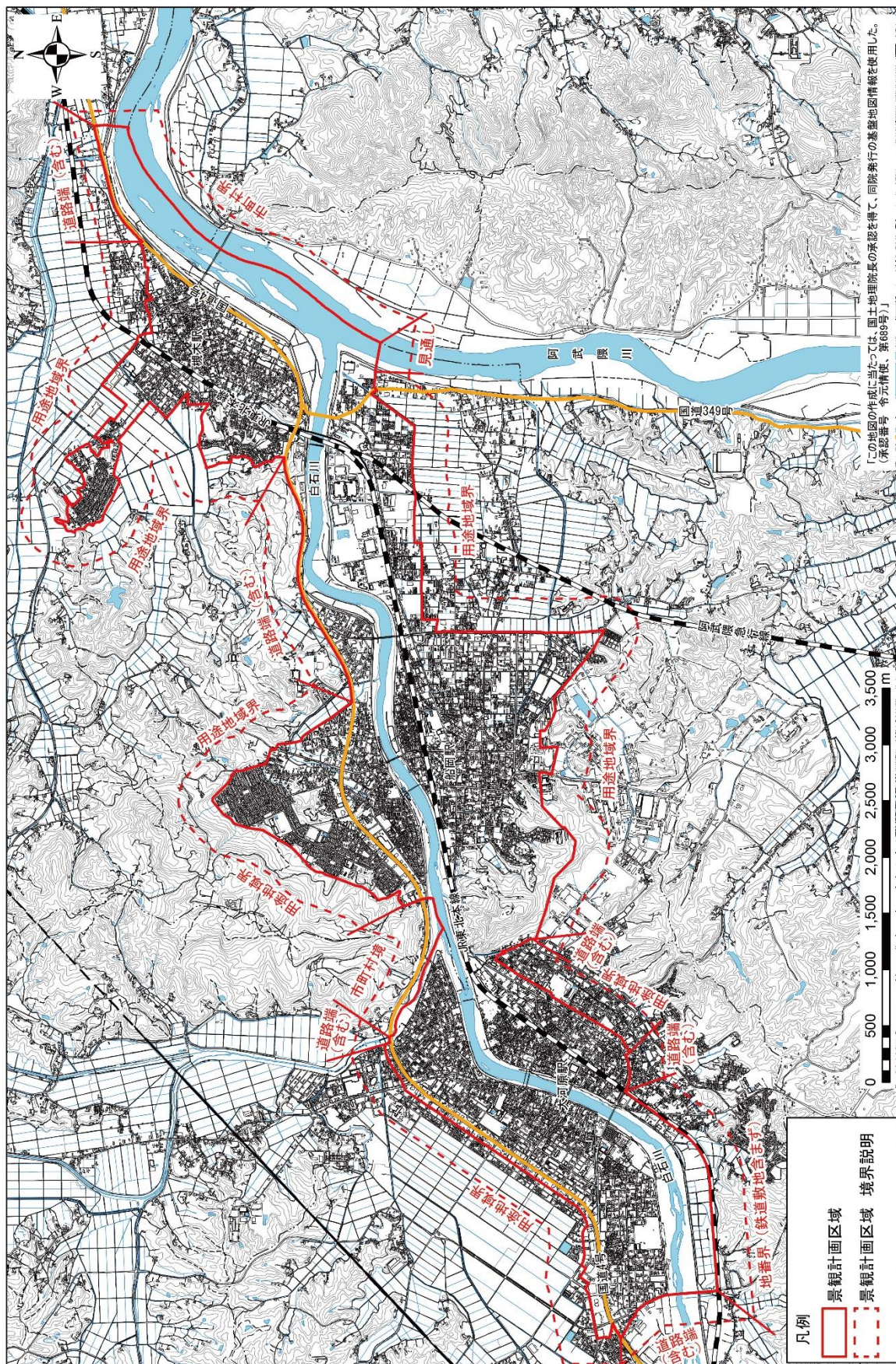


8 大河原町・柴田町中心部地区

(1) 景観計画区域

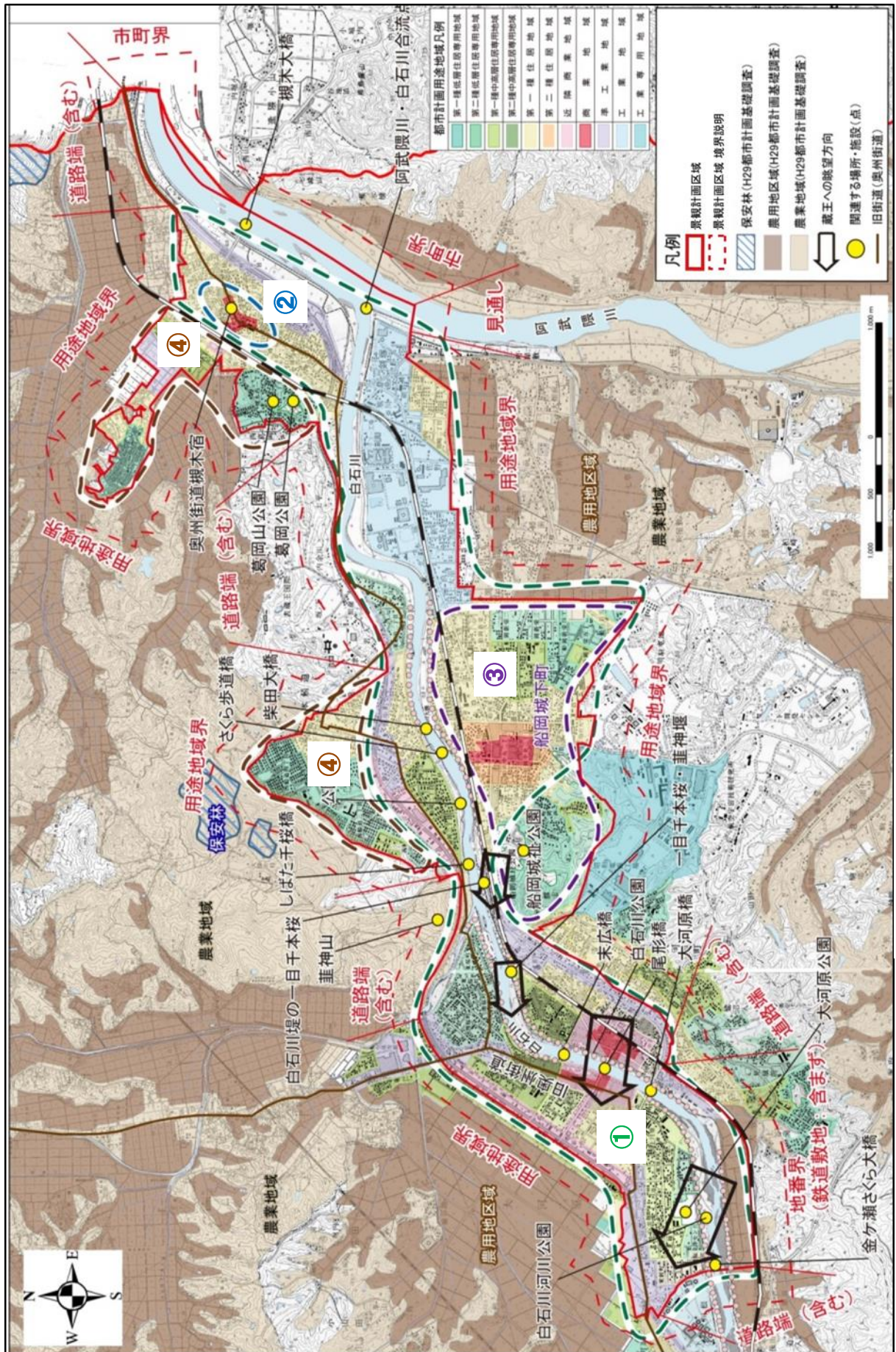
大河原町・柴田町中心部地区の区域図を以下に示します。



【区域の考え方】

大河原町・柴田町中心部地区の区域は、以下の考え方を踏まえて設定しました。

当該区域を指定する目的
<ul style="list-style-type: none">・白石川や街道等、仙南地域の交流の拠点を支えてきた歴史性と、先人たちが作りだした美しい白石川の風景を継承するとともに、白石川の流れにより形成された平野部で発展してきた市街地を対象に、魅力ある市街地の形成を図ることを目的とする。・白石川沿いの市街地における官民が協力・連携した景観まちづくりのきっかけづくりにつなげるとともに、両町の顔づくりにふさわしい、一体性を持った市街地景観と河川景観の形成を図ることを目的とし、景観計画区域を指定する。
地区内で見られる景観（景観の概況）
<p>■仙南地域らしさを象徴する景観</p> <ul style="list-style-type: none">・阿武隈川との合流地点よりもやや上流に位置する白石川沿いでは、河川堤防に「一目千本桜」が整備され、広がりのある川の流れと遠くに見える蔵王連峰が一体となった河川景観を形成している。・仙南地域の大動脈であるかつての奥州街道沿いには、宿場町の名残を今に伝える町並み景観が見られる。近代に入り、宿場町の脇には鉄道駅が配され、道筋も国道へと変化し、広がりのある市街地景観が形成されている。四保山の船岡城址公園からは、市街地を一望することができる。・かつて交通の要衝として栄えた船岡城下町のあった柴田町の中心市街地では、城下町自体に形成された町割りによる町並み景観が形成されている。・白石川の流れにより形成された平野部で発展してきた市街地のいたるところから、蔵王連峰を望むことができる。 <p>■地区固有の景観</p> <ul style="list-style-type: none">・当該地区内では、白石川を横断する数々の橋があり、白石川と桜並木が連続する美しい景観が見られる。・白石川沿いでは、河川敷を活用した公園が整備されており、白石川の水面や桜並木と一体で賑わいの景観を形成している。・国道4号や鉄道駅北側に整備された新興住宅地では、整然とした市街地景観が見られる。
区域設定の考え方
<p>■基本的な考え方</p> <p>交通の要衝として栄えた船岡城下町及び仙南地域を貫く大動脈である奥州街道、それに変わる鉄道や国道沿いに広がる市街地及び白石川沿いに整備された桜並木が広がる区域において一体的な景観の保全・形成を図るとともに、「一目千本桜」を中心とした両町の顔にふさわしい賑わいが調和した景観の保全・形成を目指した区域を設定する。</p> <p>■個別の考え方</p> <p>①白石川とその流れにより形成された平野部で発展した市街地</p> <p>白石川と桜並木、旧奥州街道沿いを中心に、背後に広がる平野部で発展してきた市街地については、一体的に景観の保全・形成を図るとともに、「一目千本桜」を中心とした両町の顔にふさわしい賑わいが調和した景観の保全・形成を図るため、区域に含めた。</p> <p>②奥州街道槻木宿周辺</p> <p>旧奥州街道の宿場町として栄えた槻木宿周辺については、当時の名残を残す町割りが形成される範囲を区域に含めた。</p> <p>③旧船岡城下町</p> <p>柴田町の中心市街地は、かつて交通の要衝として栄えた船岡城下町であり、その町割りを今に伝える重要なエリアであることから、船岡城が立地していた船岡城址公園を中心とした四保山と一体で景観の保全・形成を図るため、区域に含めた。</p> <p>④船迫・槻木の住宅団地</p> <p>近年丘陵地に整備された住宅団地については、既存の市街地景観や周辺の丘陵地の自然景観との調和を図るため、区域に含めた。</p>



▲ 区域設定検討図

(2) 景観形成方針

大河原町・柴田町中心部地区における景観形成方針を以下に示します。

■ 自然景観の保全

- ・船岡城址公園を中心とした四保山の樹林地がつくりだす緑の景観は、市街地や白石川の背景となる潤いある自然景観として保全を図る。
- ・白石川の環境を保全するとともに、一目千本桜と水辺がつくりだす潤いと彩りある自然景観の保全を図る。

■ 魅力ある景観の創出

- ・旧城下町や宿場町等の歴史性を有する市街地では、町の歴史を今に伝える建造物等の保全・活用を図るとともに、歴史性を活かした魅力ある市街地景観の形成を図る。
- ・遠方にそびえる蔵王連峰への眺望と調和し、魅力ある眺望を活かした景観形成を図る。
- ・国道沿いや鉄道沿いでは、移動に伴い連続して目にする景色を意識し、魅力ある沿道・沿線景観の創出に努める。
- ・住宅を中心に形成される市街地では、誰もが心地よく住みやすいと感じられるまちづくりの実現に向け、緑豊かな落ち着いたきのある景観形成を図る。

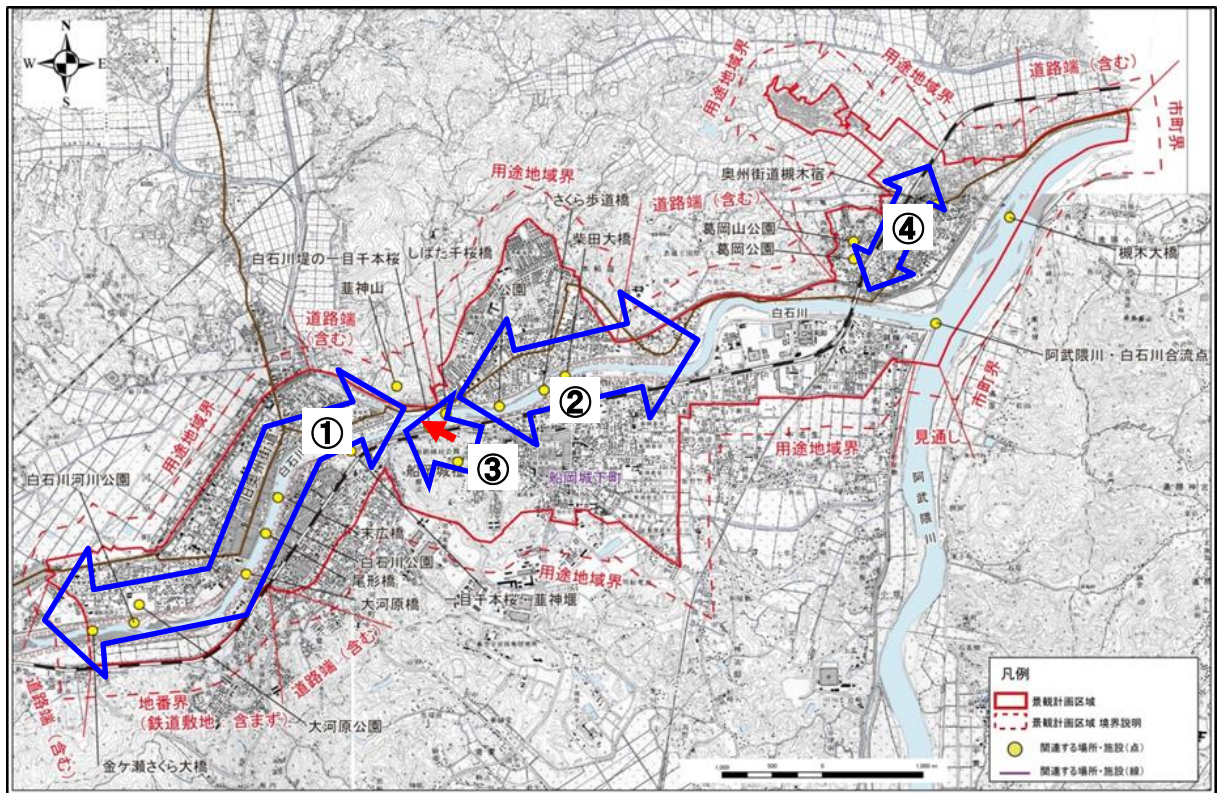
(3) 景観形成基準

大河原町・柴田町中心部地区における景観形成基準を以下に示します。

▼景観形成基準

行為	項目	景観形成基準 ※■: 地域の特徴をふまえた基準
建築物 ・工作物	配置 ・位置	<input type="checkbox"/> 周囲との連続性に配慮した配置とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 白石川沿いでは、水辺の自然景観を阻害しない配置とする。 <input type="checkbox"/> 大規模な施設となる場合には、オープンスペースを有効に配置し、潤いある市街地景観の形成に努める。
	高さ	<input checked="" type="checkbox"/> 白石川沿いからの眺望に配慮し、蔵王連峰の山並みを阻害せず、周囲と調和した高さとする。 <input type="checkbox"/> その他のエリアでは、周囲と調和した高さとする。
	形態 ・意匠	<input checked="" type="checkbox"/> 駅周辺等の商業系市街地の通り沿いでは、通りに面して低層部に開口部を設ける等により、遮へい性を低減し、歩行者からの見え方に配慮した賑わいを創出する景観の形成を図る。 <input checked="" type="checkbox"/> 白石川沿いから蔵王連峰への眺望に配慮した形態・意匠とする。 <input type="checkbox"/> 住居系市街地では、周囲から突出する奇抜なものは避け、周囲と調和した屋根、外壁等の形態・意匠とする。 <input type="checkbox"/> 大規模な建築物等では、長大な壁面を避け、周囲に与える圧迫感を軽減に努めた形態・意匠となるよう配慮する。
	色彩 ・素材	<input type="checkbox"/> 地域の景観資源等との調和を配慮し、外壁や屋根における素材や色彩に配慮する。 <input type="checkbox"/> 外壁の基調となる色彩は、高彩度の色は避け、色彩を組み合わせる場合には、全体としてのトーンを合わせた統一感のある配色とする。 <input type="checkbox"/> 屋根の色彩は、建物との調和に配慮し、周囲から突出しないものとする。
	設備類	<input type="checkbox"/> 屋上設備、屋外設備は、建築物との一体化や道路等の公共空間から見えない位置に配置する。やむを得ない場合には、通りからの見通しに対する遮へい等を行い、周囲の景観に影響を与えないよう配慮する。
	外構 ・緑化 等	<input type="checkbox"/> 道路との境界部にオープンスペースを設ける場合には、樹木や花壇等を活用し、潤いある通り景観の創出に配慮する。 <input type="checkbox"/> 駐車場を設ける場合には、出入口を最小限に整理し、道路境界部や敷地内における植樹等、周囲に閑散とした印象とならないよう配慮する。
	開発行為・土地の形質の変更・木竹の植栽伐採	造成等
既存樹木・樹林等の保全		<input type="checkbox"/> 地域の景観を印象づける高木等の既存樹木は、可能な限り保全するよう努める。 <input type="checkbox"/> 植樹をする際は、周囲の自然植生に配慮した樹種の選択に努める。 <input type="checkbox"/> 伐採後は、自然の植生の再生に向けた措置を行うよう努める。

(参考) 区域で見られる景観

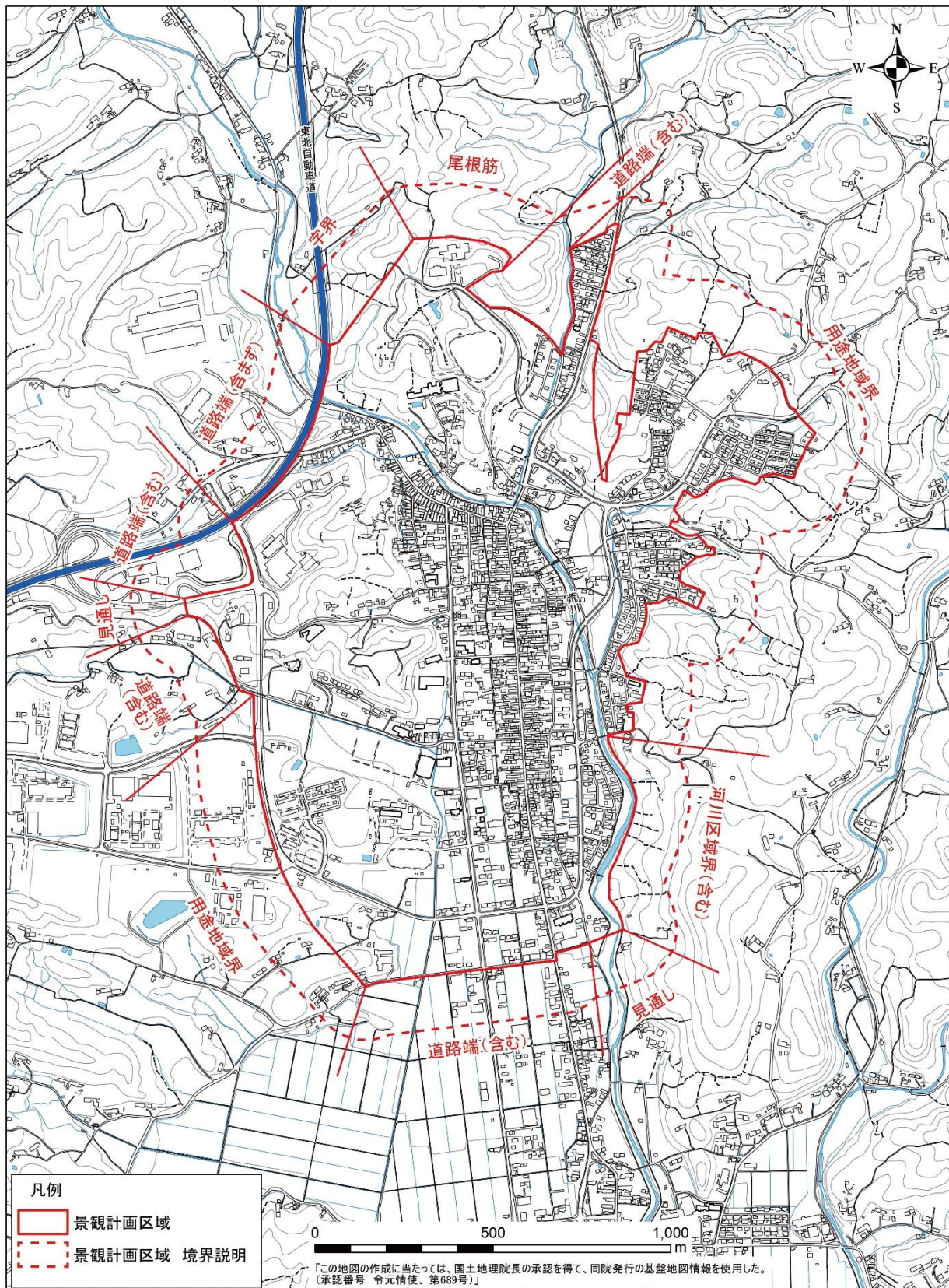


区域で見られる景観	説明
 <p data-bbox="193 577 517 611">① 葦神堰から見る蔵王連峰</p>	<p data-bbox="716 248 1007 282">●白石川と一目千本桜</p> <p data-bbox="716 293 1406 566">大河原町の中心を流れる白石川は、豊かな水の流れにより穏やかな水辺景観を形成している。また、春には一目千本桜と遠景に望む蔵王連峰とともに、大河原町を代表する雄大な自然景観を形成し、桜まつりでは町内外の来訪者により賑わいある景観も形成されている。</p>
 <p data-bbox="193 943 659 1021">② さくら歩道橋から見た一目千本桜と蔵王連峰</p>	<p data-bbox="716 645 1070 678">●さくら歩道橋と一目千本桜</p> <p data-bbox="716 689 1406 969">さくら歩道橋は、JR 東北本線を跨いで桜を見渡せるよう整備された歩道橋で、白石川の水面と桜、JR 東北本線が川沿いに走る様子、遠景に望む蔵王連峰を眺望することができる。また、川沿いに桜並木が続き、柴田町を代表する桜の名所として、憩いや賑わいの景観を形成している。</p>
 <p data-bbox="193 1350 675 1417">③ 柴田町（船岡城址公園）から見た一目千本桜と蔵王連峰（図内赤矢印）</p>	<p data-bbox="716 1048 1062 1081">●船岡城址公園からの眺め</p> <p data-bbox="716 1093 1406 1373">船岡城址公園には、柴田町のシンボルである「船岡平和観音」が鎮座しており、白石川や大河原町・柴田町を見下ろすことができ、遠景に蔵王連峰を望むことができる。桜の名所でもあり春には町内外の大勢の来訪者によってにぎわいある景観が見られる。</p>
 <p data-bbox="193 1753 547 1787">④ 槻木宿の名残を伝える建物</p>	<p data-bbox="716 1433 1007 1467">●旧奥州街道と槻木宿</p> <p data-bbox="716 1478 1406 1758">旧奥州街道が通る槻木は、旧街道沿いには飲食店や商店などが点在し、低層の建築物を中心とした街並みが形成されている。宿場町だった名残がうかがえる建築物や間口に対して奥行きがある町割など、地域の歴史性を今に伝える重要な街並み景観を形成している。</p>

9 村田町中心部地区

(1) 景観計画区域

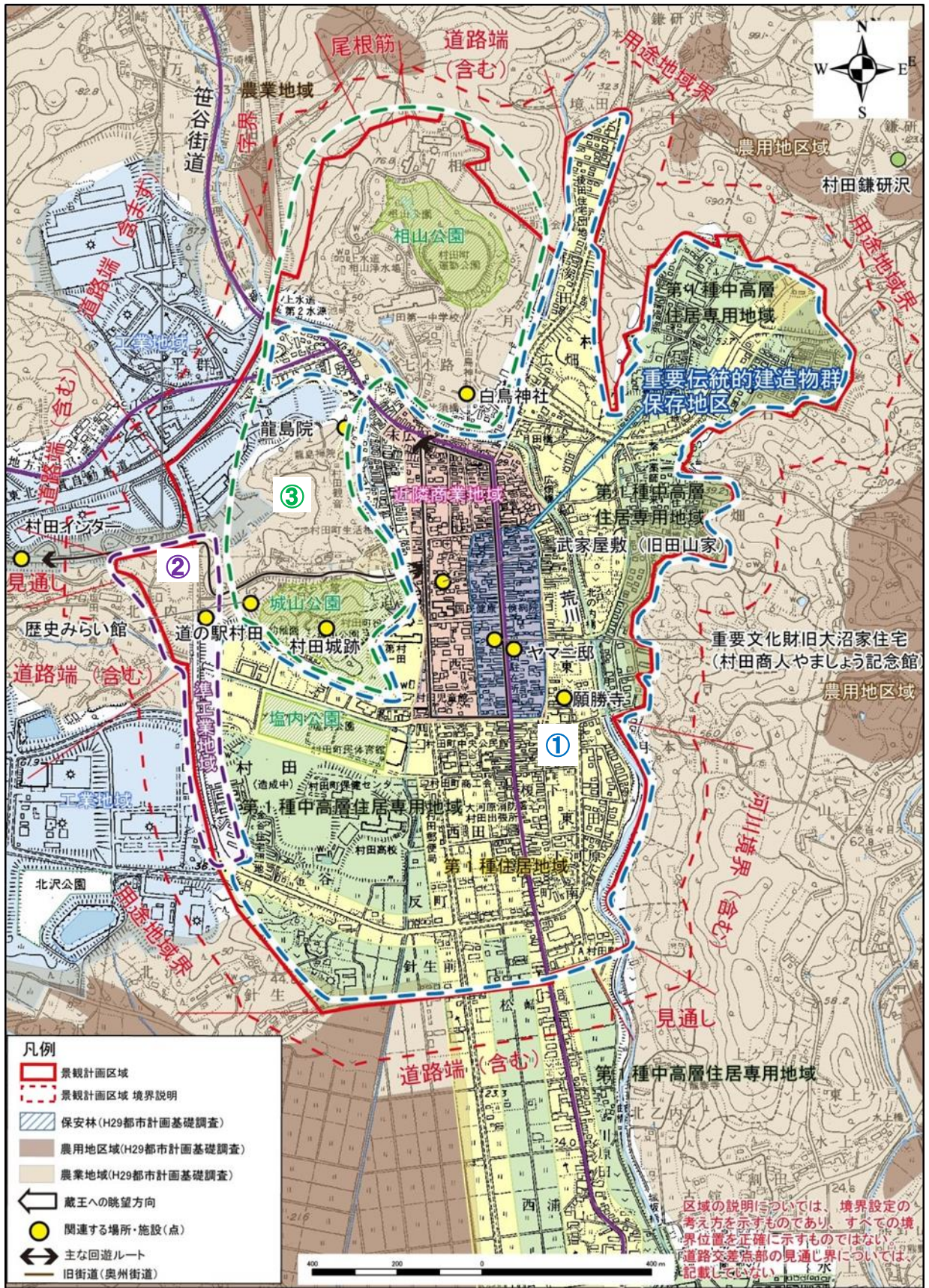
村田町中心部地区の区域図を以下に示します。



【区域の考え方】

村田町中心部地区の区域は、以下の考え方を踏まえて設定しました。

当該区域を指定する目的
<ul style="list-style-type: none">・村田城跡東の街道沿いに形成された商業地として栄えた歴史を今に伝える、中心部の重要伝統的建造物群保存地区を核に、近代化とともに広がりながら形成されてきた現在の中心部及び周辺の住居系市街地を対象に、村田の歴史と伝統を活かした魅力ある市街地の形成を図ることを目的とする。・重要伝統的建造物群保存地区を中心とする周辺市街地を対象に、歴史的な町並みと調和した市街地景観と合わせ、村田町の中心を担う一体的な市街地景観形成を図ることを目的とし、景観計画区域を指定する。
地区内で見られる景観（景観の概況）
<p>■仙南地域らしさを象徴する景観</p> <ul style="list-style-type: none">・重要伝統的建造物群保存地区に指定されている「蔵の街並み」は、紅花や藍の交易で栄えた商業都市に由来し、店蔵と門が連続する特徴ある歴史的な町並みが維持されている。・重要伝統的建造物群保存地区を含む地区中心部には古い町割りや住宅が残り、一体的な街並み景観を形成している。 <p>■地区固有の景観</p> <ul style="list-style-type: none">・蔵のある通り沿いは南北に長い街区となっており、建物の間から背後に迫る里山までを見通すことができる。・重要伝統的建造物群保存地区外には住宅や店舗が見られる。地区中心部は平坦だが、周囲は起伏が多い地形となっており、周辺を里山に囲まれた盆地となっている。・地区中心部から外れると、北東の方向に近年住宅地として造成された住宅街がみられる。
区域設定の考え方
<p>■基本的な考え方</p> <p>歴史的な商業都市である重要伝統的建造物群保存地区を中心に、村田町の人々が暮らす市街地（工業団地等の工業エリアを除く）を対象に、歴史的な地区と調和した市街地景観の形成を図る必要がある。</p> <p>■個別の考え方</p> <p>①歴史的な町並みの残る地区の周囲に広がる既成市街地</p> <p>村田町の歴史的な特性を伝えつつ、それらと調和した快適かつ潤いある住環境の形成を目指し、歴史的な町並みと周囲に広がる丘陵地の緑や河川と調和した市街地景観の形成に向け、中心部と一体的に景観形成を図る必要があるため、区域に含めた。</p> <p>②村田インターチェンジ周辺及びインターと中心部を結ぶ幹線道路沿い</p> <p>村田インターチェンジ周辺及びインターと中心部を結ぶ幹線道路沿いは、広域的な交通ネットワークである東北自動車道からの来訪者を迎える玄関口としての役割を担っており、歴史的な町並みを有する市街地へとつながる景観形成を目指し落ち着いた景観形成に向けた配慮を求める必要があることから、区域に含めた。</p> <p>③城山公園から龍島院、相山公園等からなる丘陵地</p> <p>城址である城山公園から龍島院、相山公園等からなる丘陵地は、歴史と自然が調和した緑豊かな環境として、地域の人々に親しまれている場であることをふまえ、市街地と一体的に利用される自然地として、自然環境の保全と市街地景観との調和を図る必要があるため、区域に含めた。</p>



▲区域設定検討図

(2) 景観形成方針

村田町中心部地区における景観形成方針を以下に示します。

■ 自然景観の保全

- ・ 公園等の丘陵地の樹林地がつくりだす緑の景観は、市街地の背景となる潤いある自然景観として保全を図る。
- ・ 荒川の環境を保全するとともに、水と河畔林等がつくりだす潤いある水辺景観の保全を図る。

■ 魅力ある景観の創出

- ・ 商家町として栄えた歴史的な町並みの保全を図る。
- ・ 歴史的な町並みを持つ中心部と調和した魅力ある市街地景観の形成を図るとともに、周囲を取り囲む山々の緑と調和した落ち着いた市街地景観の形成を図る。
- ・ 東北自動車道村田インターチェンジ周辺やインターへのアクセス道路沿いでは、歴史を継承した魅力ある市街地へ続く町の玄関口にふさわしい町の魅力を感じさせる落ち着いた市街地景観形成を図る。

(3) 景観形成基準

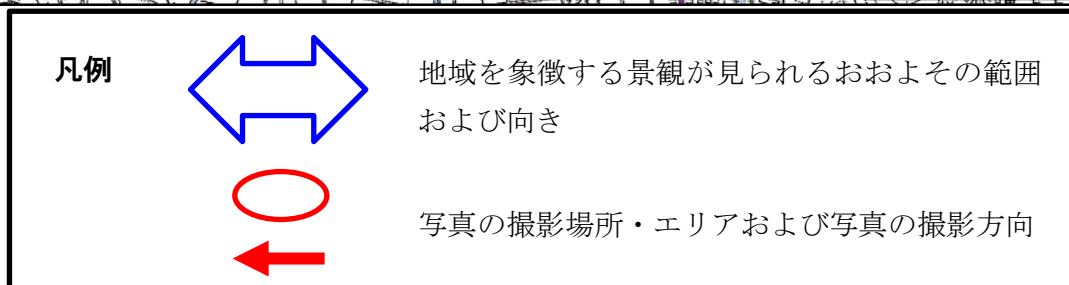
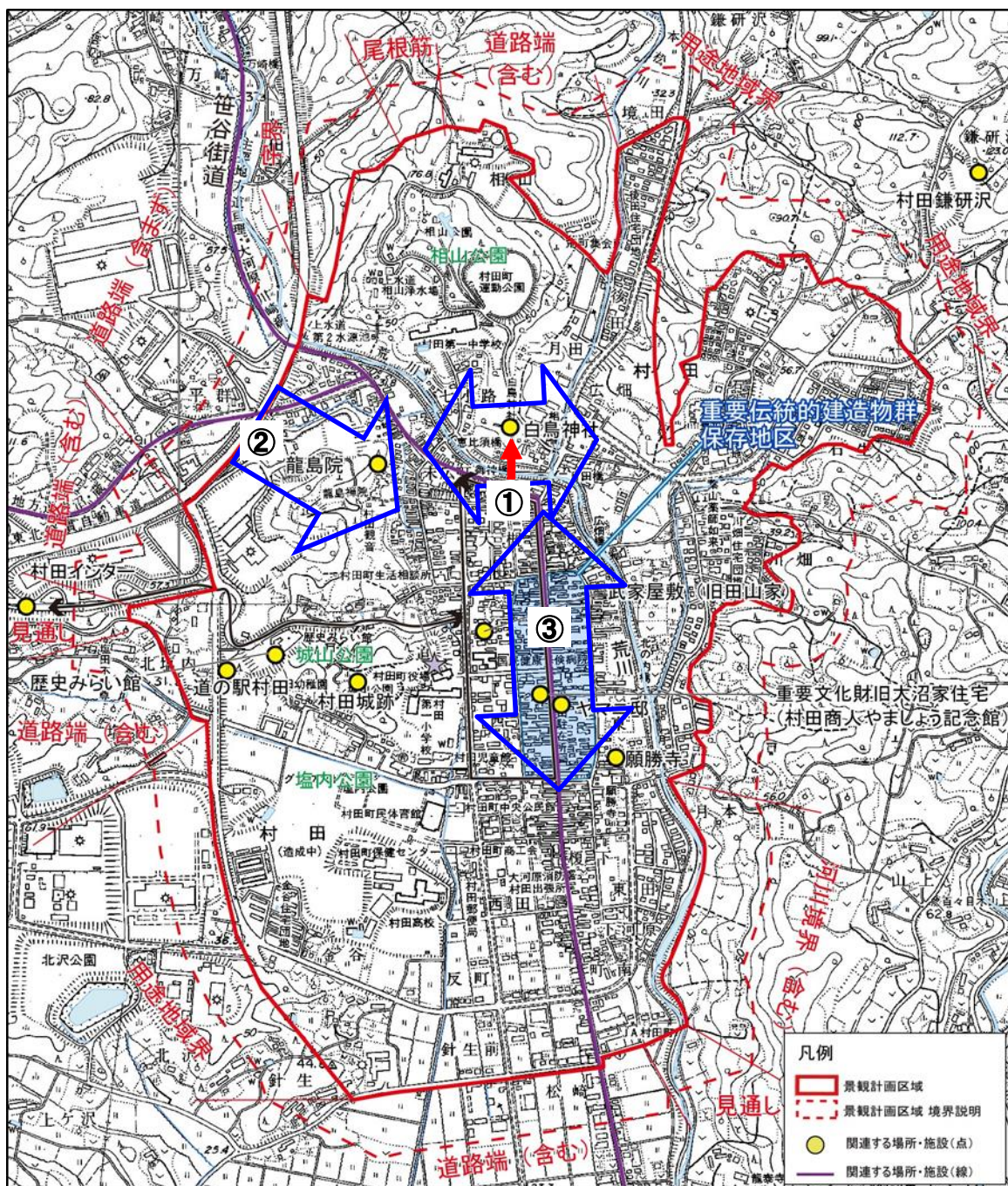
村田町中心部地区における景観形成基準を以下に示します。

▼景観形成基準

行為	項目	景観形成基準	※■：地域の特徴をふまえた基準
建築物 ・工作物	配置 ・位置	<input type="checkbox"/> 周囲との調和に配慮した配置とする。 <input type="checkbox"/> 大規模な施設となる場合には、オープンスペースを有効に配置し、潤いある市街地景観の形成に努める。	
	高さ	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的な町並みとの連続性に配慮し、周囲と調和した高さとする。	
	形態 ・意匠	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的な市街地及び周辺では、伝統的な建造物による町並みと調和するよう落ち着いた形・意匠となるよう配慮する。 <input type="checkbox"/> 住居系市街地では、周囲から突出する奇抜なものは避け、周囲と調和した屋根、外壁等の形態・意匠とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 荒川等の水辺では、水辺を活かし周囲の自然と調和した形態・意匠となるよう配慮する。 <input type="checkbox"/> 大規模な建築物等では、長大な壁面を避け、周囲に与える圧迫感を軽減に努めた形態・意匠となるよう配慮する。	
	色彩 ・素材	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史性を有するエリアおよびその周辺では、伝統的な建造物等と調和するよう、外壁や屋根における素材や色彩に配慮する。 <input type="checkbox"/> 外壁の基調となる色彩は、高彩度の色は避け、色彩を組み合わせる場合には、全体としてのトーンを合わせた統一感のある配色とする。 <input type="checkbox"/> 屋根の色彩は、建物との調和に配慮し、周囲から突出しないものとする。	
	設備類	<input type="checkbox"/> 屋上設備、屋外設備は、建築物との一体化や道路等の公共空間から見えない位置に配置する。やむを得ない場合には、通りからの見通しに対する遮へい等を行い、周囲の景観に影響を与えないよう配慮する。	
	外構 ・緑化 等	<input type="checkbox"/> 道路との境界部にオープンスペースを設ける場合には、樹木や花壇等を活用し、潤いある通り景観の創出を工夫する。 <input type="checkbox"/> 駐車場を設ける場合には、出入口を最小限に整理し、道路境界部や敷地内における植樹等、周囲に閑散とした印象とならないよう配慮する。	
開発行為・土地の形質の変更・木竹の植栽伐採	周辺への配慮	<input type="checkbox"/> 周囲の自然環境、植生等に配慮する。	
	造成等	<input type="checkbox"/> 既存の地形を活かした造成に努め、切土・盛土は最小限とする。 <input type="checkbox"/> 法面や擁壁等を設ける場合には、周囲の環境との調和に配慮した素材や工法とする。	
	既存樹木・樹林等の保全	<input type="checkbox"/> 地域の景観を印象づける高木等の既存樹木は、可能な限り保全するよう努める。 <input type="checkbox"/> 植樹をする際は、周囲の自然植生に配慮した樹種の選択に努める。 <input type="checkbox"/> 伐採後は、自然の植生の再生に向けた措置を行うよう努める。	

※村田町伝統的建造物群保存地区以外を対象とする。

(参考) 区域で見られる景観

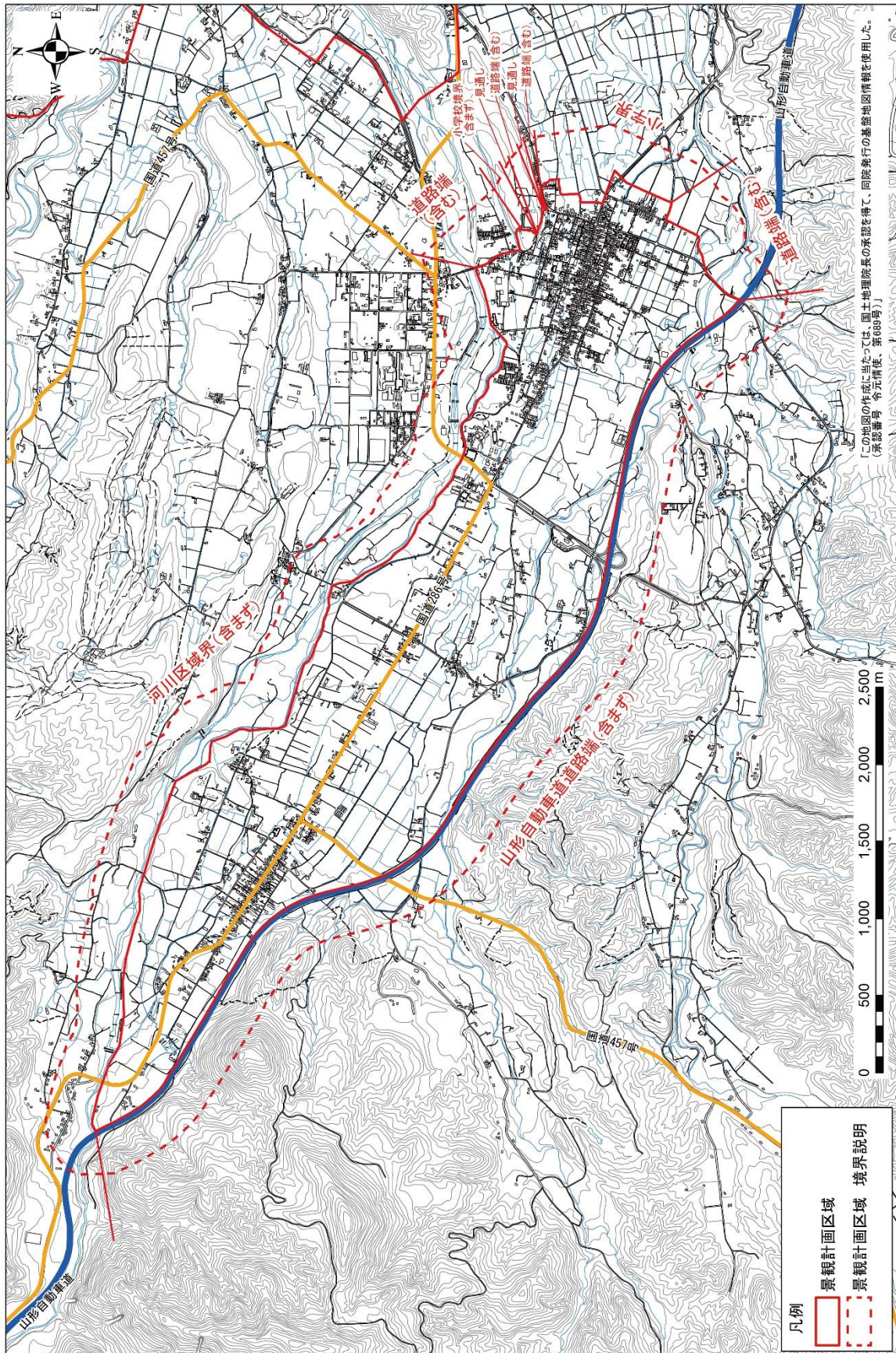


区域で見られる景観	説明
 <p data-bbox="194 618 504 649">①白鳥神社（図内赤矢印）</p>	<p data-bbox="716 246 1062 277">●白鳥神社と周囲の街並み</p> <p data-bbox="716 295 1402 421">白鳥神社は、仙南地域に広く信仰されている白鳥信仰に基づいた神社で、地域の信仰を伝える重要な要素となっている。</p> <p data-bbox="716 439 1402 613">また、周囲の街並みは低層の建築物を中心とした街並みが広がり、街道に向かって南北に奥行きがある町割りが残り、街道沿いに発展した街並みの名残がうかがえる。</p>
 <p data-bbox="194 1005 517 1037">②龍島院から市街地を望む</p>	<p data-bbox="716 678 1082 710">●丘陵地及びそこからの眺め</p> <p data-bbox="716 728 1402 996">当該地区の周囲は、城山公園，龍島院，相山公園などの丘陵地に囲まれており，緑豊かな景観が見られる。龍島院からは市街地を望むことができ，低層の建築物を中心とした村田町の中心部と，その向こうに広がる里山が調和した穏やかな街並み景観を望むことができる。</p>
 <p data-bbox="194 1489 408 1520">③村田蔵の町並み</p>	<p data-bbox="716 1064 893 1095">●蔵の街並み</p> <p data-bbox="716 1113 1402 1288">かつて紅花などの流通で栄えた村田町は，商家の蔵が立ち並ぶ街並みが重要伝統的建造物群保存地区に指定され，その歴史性を伝える景観を形成している。</p> <p data-bbox="716 1305 1402 1480">町割りは東西に奥行きがあり，やましょう記念館では道沿いにある蔵のみならず中庭や奥の蔵を見学することができ，街並みの景観を形づくる由来を伝える重要な要素となっている。</p>

10 川崎町中心部地区

(1) 景観計画区域

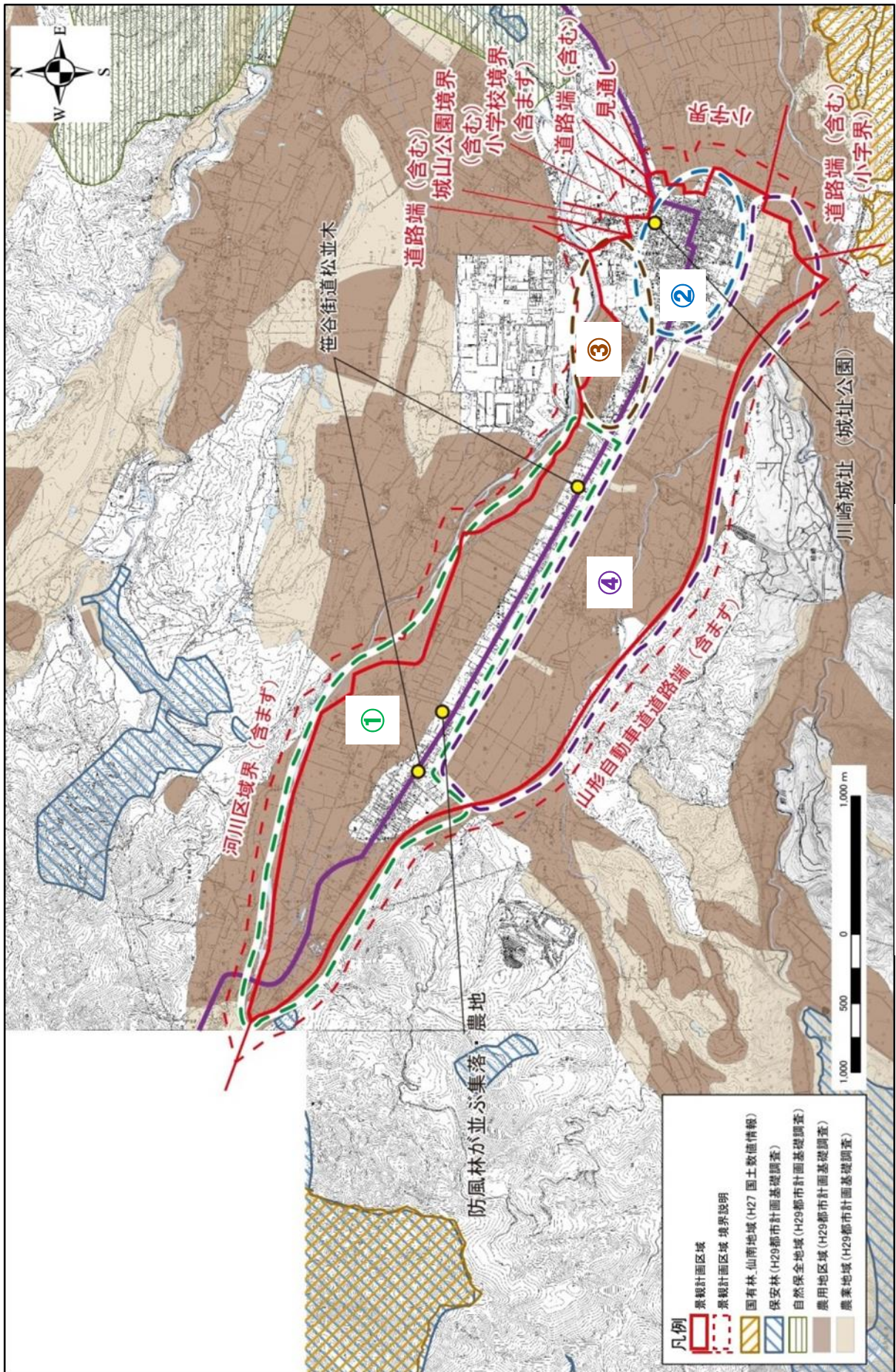
川崎町中心部地区の区域図を以下に示します。



【区域の考え方】

川崎町中心部地区の区域は、以下の考え方を踏まえて設定しました。

当該区域を指定する目的
<ul style="list-style-type: none">かつての川崎城下町として形成された町の中心部と、旧笹谷街道である国道 286 号沿いに広がる農村景観と街道の名残を今に伝える松並木等が一体となって形成されている川崎町らしさを育む景観について、その特性を継承した、地域の魅力を高める景観づくりやまちづくりの取組のきっかけづくりとすることを目的とし、景観計画区域を指定する。
地区内で見られる景観（景観の概況）
<p>■仙南地域らしさを象徴する景観</p> <ul style="list-style-type: none">川崎町の中央を貫くかつての笹谷街道である国道 286 号には、街道であった歴史を伝える松並木が連続する特徴ある通り景観が形成されている。旧街道沿いに広がる農村集落では、一定の間隔で防風林が立ち並ぶことにより、農地や集落を守っている特徴ある農村景観が形成されている。川崎城址である城山公園からは、落葉樹の葉が落ちた冬には、木々の間から旧城下町や農村集落を一望することができ、蔵王連峰を遠景に望むことができる。 <p>■地区固有の景観</p> <ul style="list-style-type: none">旧川崎城下町に由来する川崎町の中心部の旧街道筋に当たる地区では、商店街が形成され、賑わいの景観が見られ、その周囲には低層住宅を中心とした市街地が広がる。旧川崎城下町の周辺部では、病院、学校、住宅等が立地し、建築物と農地が混在する景観が見られる。笹谷街道南側には、まとまった水田が広がり、穏やかな農業の景観が見られる。
区域設定の考え方
<p>■基本的な考え方</p> <p>かつての笹谷街道である国道 286 号周辺に広がる防風林が特徴的な沿道の農村集落において、その特徴的な景観の保全と調和を求める。また川崎町の中心部である旧城下町由来の市街地においては、長期総合計画に示された計画的な土地利用推進（住環境の保護を第一に、住・商・工の都市機能がバランスよく集積したコンパクトな中心市街地の形成）と併せて計画的な市街地環境の保全・形成を図りつつ、町の歴史性を活かす景観形成を目指した区域を設定する。</p> <p>■個別の考え方</p> <p>①松並木や防風林による特徴的な景観を有する農村集落</p> <p>かつての笹谷街道から北側に広がる農村集落は、松並木や防風林による特徴的な農村集落景観の保全と調和を図るため、区域に含めた。</p> <p>②旧川崎城下町に由来する川崎町中心部</p> <p>旧川崎城下町に由来する当時の町割を残す川崎町の中心部は、歴史的な町割や街道筋を活かした通り景観や商店街による賑わい景観の保全・形成を図るため、区域に含めた。</p> <p>③旧川崎城下町周辺の市街地</p> <p>旧川崎城下町と連担して中心部を形成する市街地は、計画的な土地利用推進とともに、景観形成の取組を通じて良好な市街地環境の保全・形成を目指したまちづくりの実現に向け、区域に含めた。</p> <p>④笹谷街道南側の水田地帯</p> <p>かつての笹谷街道南側の水田地帯は、山間の平地における農業の営みがつくりだす景観を形成しており、北側の特徴的な景観を有する農村集落や、市街地と一体的な景観のまとまりを形成していることから、これらと一体で区域に含めた。</p>



▲ 区域設定検討図

(2) 景観形成方針

川崎町中心部地区における景観形成方針を以下に示します。

■ 農の営み等とともにある景観の継承

- ・ 旧街道の歴史を今に伝える松並木の保全を図るとともに、沿道では周囲に広がる田園景観と調和した景観の保全・継承を図る。
- ・ 農村集落内に分布する防風林の保全・継承を図る。
- ・ 遠方にそびえる蔵王連峰への眺望と調和した景観形成を図る。

■ 魅力ある景観の創出

- ・ 中心部では、地域の景観資源を活かし、住む人、訪れる人が心地よく感じられる魅力ある市街地景観の形成を図る。
- ・ 旧城址である城山公園から眺望される、背後に連なる山並みと調和したまとまりある市街地景観の形成を図る。

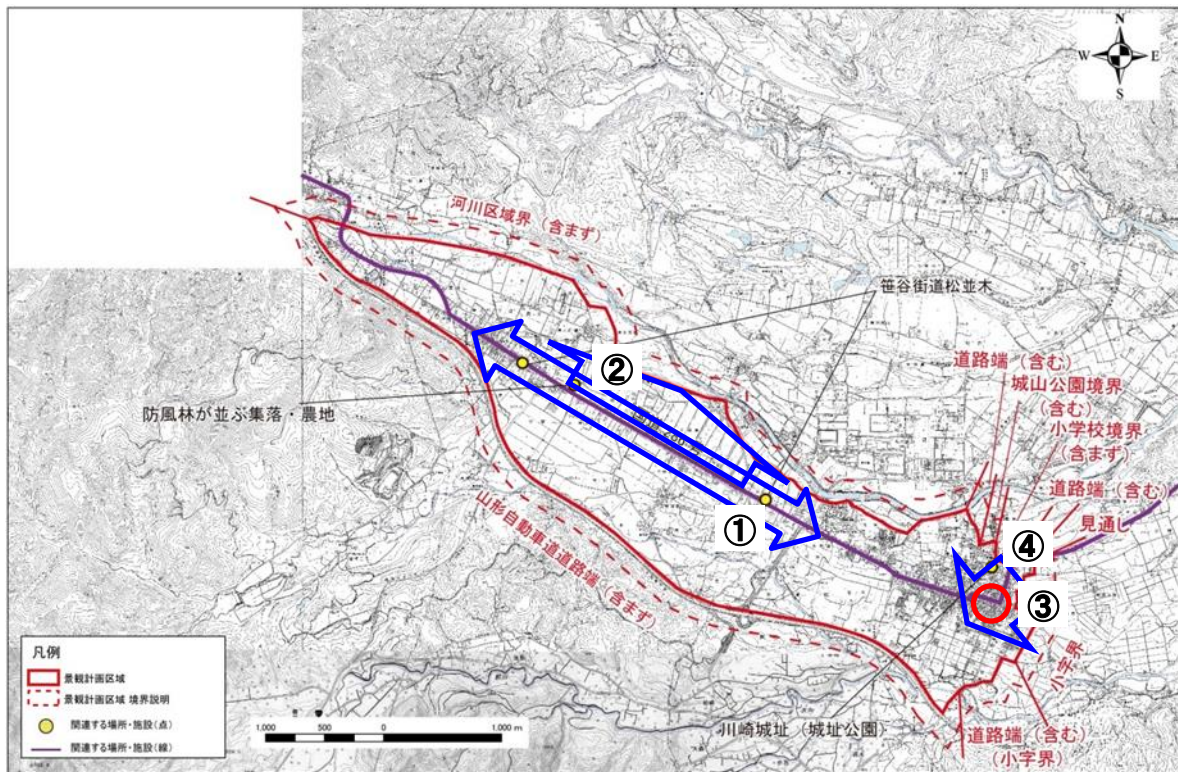
(3) 景観形成基準

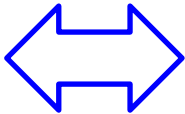

川崎町中心部地区における景観形成基準を以下に示します。

▼景観形成基準

行為	項目	景観形成基準 ※■:地域の特徴をふまえた基準
建築物 ・工作物	配置	<input type="checkbox"/> 市街地では、周囲との連続性に配慮した配置とする。 <input type="checkbox"/> その他のエリアでは、周囲の環境に配慮したゆとりある配置とする。 <input type="checkbox"/> 大規模な施設となる場合には、オープンスペースを有効に配置し、潤いある景観の形成に努める。
	高さ	<input checked="" type="checkbox"/> 旧城址等の高台からの眺望や蔵王連峰への眺望に配慮し、周囲の山並みを阻害せず、周囲と調和した高さとする。
	形態 ・意匠	<input checked="" type="checkbox"/> 旧街道沿いでは、松並木がつくる街道景観を阻害せず、周囲の田園景観と調和した形態・意匠とする。 <input type="checkbox"/> 住居系市街地では、周囲から突出する奇抜なものは避け、周囲と調和した屋根、外壁等の形態・意匠とする。 <input type="checkbox"/> 大規模な建築物等では、長大な壁面を避け、周囲に与える圧迫感を軽減に努めた形態・意匠となるよう配慮する。
	色彩 ・素材	<input type="checkbox"/> 地域の景観資源との調和を配慮し、外壁や屋根における素材や色彩に配慮する。 <input type="checkbox"/> 外壁の基調となる色彩は、高彩度の色は避け、色彩を組み合わせる場合には、全体としてのトーンを合わせた統一感のある配色とする。 <input type="checkbox"/> 屋根の色彩は、建物との調和に配慮し、周囲から突出しないものとする。
	設備類	<input type="checkbox"/> 屋上設備、屋外設備は、建築物との一体化や道路等の公共空間から見えない位置に配置する。やむを得ない場合には、通りからの見通しに対する遮へい等を行い、周囲の景観に影響を与えないよう配慮する。
	外構 ・緑化 等	<input checked="" type="checkbox"/> 屋敷林等による特徴ある田園景観と調和した植栽となるよう配慮する。 <input type="checkbox"/> 駐車場を設ける場合には、出入口を最小限に整理し、道路境界部や敷地内における植樹等、周囲に閑散とした印象とならないよう配慮する。
開発行為・土地の形質の変更・木竹の植栽伐採	周辺への配慮	<input type="checkbox"/> 周囲の自然環境、植生等に配慮する。
	造成等	<input type="checkbox"/> 既存の地形を活かした造成に努め、切土・盛土は最小限とする。 <input type="checkbox"/> 法面や擁壁等を設ける場合には、周囲の環境との調和に配慮した素材や工法とする。
	既存樹木・樹林等の保全	<input checked="" type="checkbox"/> 地域の景観を印象づける高木等の既存樹木は、可能な限り保全するよう努める。 <input type="checkbox"/> 植樹をする際は、周囲の自然植生に配慮した樹種の選択に努める。 <input type="checkbox"/> 伐採後は、自然の植生の再生に向けた措置を行うよう努める。

(参考) 区域で見られる景観



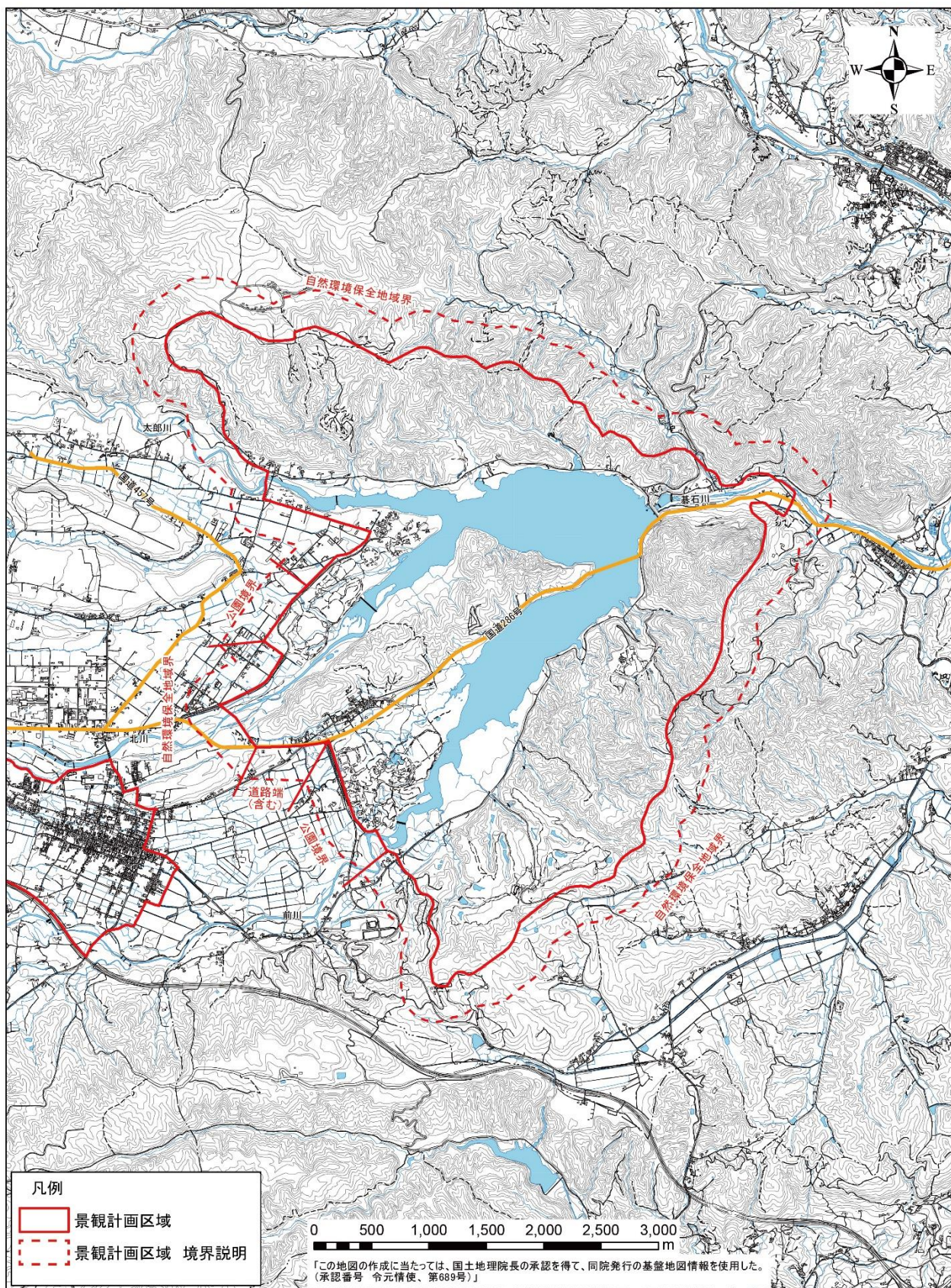
凡例		地域を象徴する景観が見られるおおよその範囲 および向き
		写真の撮影場所・エリアおよび写真の撮影方向

区域で見られる景観	説明
 <p data-bbox="193 577 438 611">①街道沿いの松並木</p>	<p data-bbox="715 246 1038 280">●笹谷街道沿いの松並木</p> <p data-bbox="715 295 1406 472">かつて街道沿いには、風避けや日避け、積雪時の道標となるよう並木が植えられた。旧笹谷街道である国道286号沿いにも松並木が残り、街道筋であったことがわかる。</p>
 <p data-bbox="193 940 515 974">②家屋・農地を守る防風林</p>	<p data-bbox="715 645 991 678">●蔵王おろしと防風林</p> <p data-bbox="715 694 1406 916">蔵王おろしから家屋や農地を守るための防風林が道路に対して垂直に並んでいる様子は、川崎町の気候風土を表す特徴的な景観要素である。傍らに走る国道286号沿いの松並木や合間の農地・水田とあわせ、川崎町独自の特徴的な景観を形成している。</p>
 <p data-bbox="185 1312 655 1346">③町中心部のクランク道路（図内赤丸部分）</p>  <p data-bbox="193 1680 528 1713">④城山公園からの眺望（冬）</p>	<p data-bbox="715 999 1259 1032">●旧川崎城と城下町の名残がみられる町場</p> <p data-bbox="715 1048 1406 1317">旧川崎城は、城山公園として整備され、小高いところから低層の建物が並ぶ町場を望むことができる。また、旧川崎城下町だった川崎町の中心部では、城攻めに備えクランクした道がそのまま道路となっている場所や入り組んだ町割りなどが今に残り、特徴的な町场景観を形成している。</p>

1 1 釜房湖周辺地区

(1) 景観計画区域

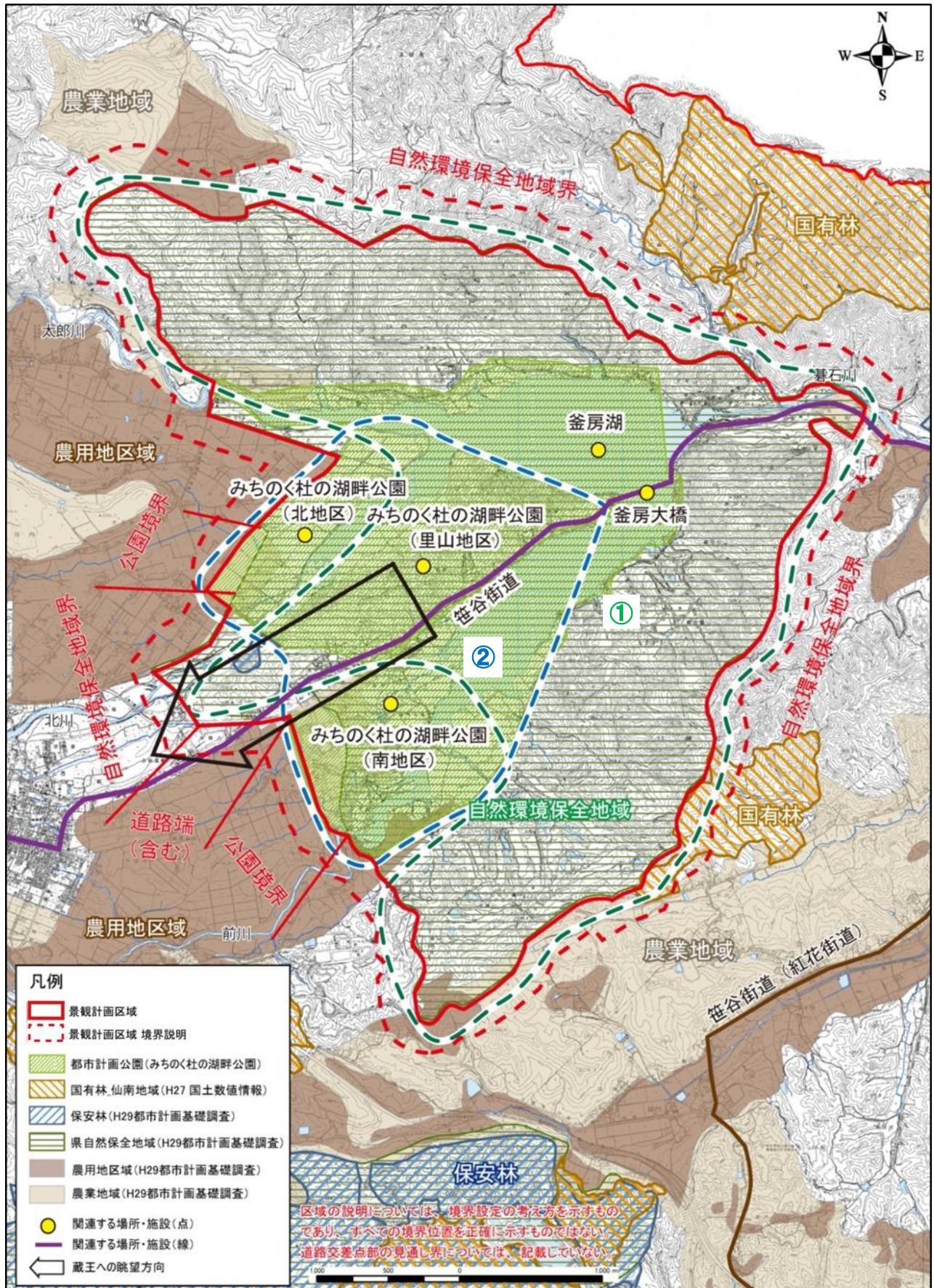
釜房湖周辺地区の区域図を以下に示します。



【区域の考え方】

釜房湖周辺地区の区域は、以下の考え方を踏まえて設定しました。

当該区域を指定する目的
<ul style="list-style-type: none">・貴重な水源地であり、広大な水面が広がる釜房湖や湖を取り囲む丘陵地の緑、湖の周囲に整備されたみちのく杜の湖畔公園による雄大な自然景観と、レクリエーションを共に楽しめる景観地について、県自然環境保全地域による保全を図るとともに、湖及び周辺の樹林地による一体的な自然景観の形成を図ることを目的とし、景観計画区域を指定する。
地区内で見られる景観（景観の概況）
<p>■仙南地域らしさを象徴する景観</p> <ul style="list-style-type: none">・ダム湖である釜房湖を丘陵地が囲み、広大な水面と緑による雄大な自然景観が形成されている。・湖の中央に丘陵地が入り込んだ地形となっており、湖の中央を横断する釜房大橋からは、前方に緑を中央にして両側に水面、その外側にまた丘陵地の緑が見られる特徴的な自然景観を形成している。・釜房湖湖畔やみちのく杜の湖畔公園南地区からは、水面や公園の花々を前景に、蔵王連峰を遠くに望むことができる。 <p>■地区固有の景観</p> <ul style="list-style-type: none">・みちのく杜の湖畔公園南地区では、色とりどりの花による景観や、多目的広場を中心としたにぎわいの景観が見られる。・みちのく杜の湖畔公園里山地区では、かつての薪炭林である雑木林や100年ほど前に植えられたスギ林、谷合いのため池や棚田の跡等、かつての里地里山の姿を伝える景観が見られる。・みちのく杜の湖畔公園北地区では、水田、畑、放牧場等の草地を中心とした牧歌的な景観が見られる。
区域設定の考え方
<p>■基本的な考え方</p> <p>湖と丘陵地が形成する雄大な自然景観の保全と調和を図るとともに、みちのく杜の湖畔公園においては、湖や丘陵地と一体的な景観形成を目指した区域を設定する。</p> <p>■個別の考え方</p> <p>①ダム湖の水面と丘陵部</p> <p>釜房湖の水面とそれを取り囲み、湖の中央に入り組んでいる丘陵部は、一体で雄大な自然景観を形成していることから、景観の保全・形成を図るため、区域に含めた。</p> <p>②みちのく杜の湖畔公園</p> <p>みちのく杜の湖畔公園は、色とりどりの花々による多彩な景観、かつての里地里山の姿を伝える景観、草地による牧歌的な景観が、ダム湖の水面や丘陵部の緑、遠景の蔵王連峰と一体となり多様な景観を形成していることから、周辺の自然景観と一体で景観形成を図るため、区域に含めた。</p>



▲区域設定検討図

(2) 景観形成方針

釜房湖周辺地区における景観形成方針を以下に示します。

■ 自然景観の保全

- ・ 釜房湖の湖畔とその周囲に広がる豊かな樹林地からなる水と緑が織り成す自然景観の保全を図る。

■ 魅力ある景観の創出

- ・ みちのく杜の湖畔公園では、自然を活かし、楽しむ景観地につながる魅力ある景観形成を図る。

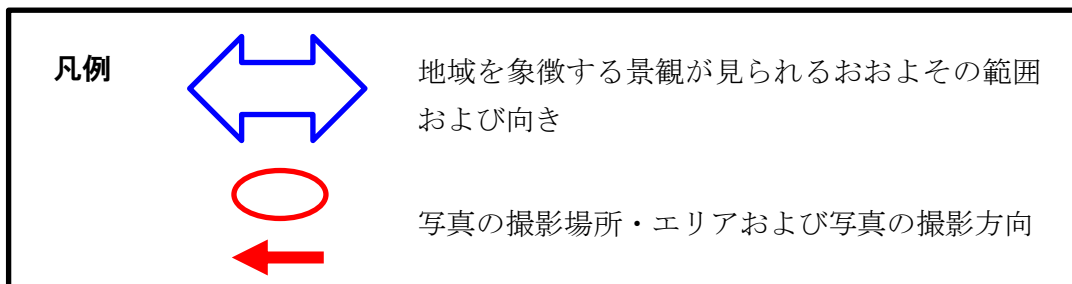
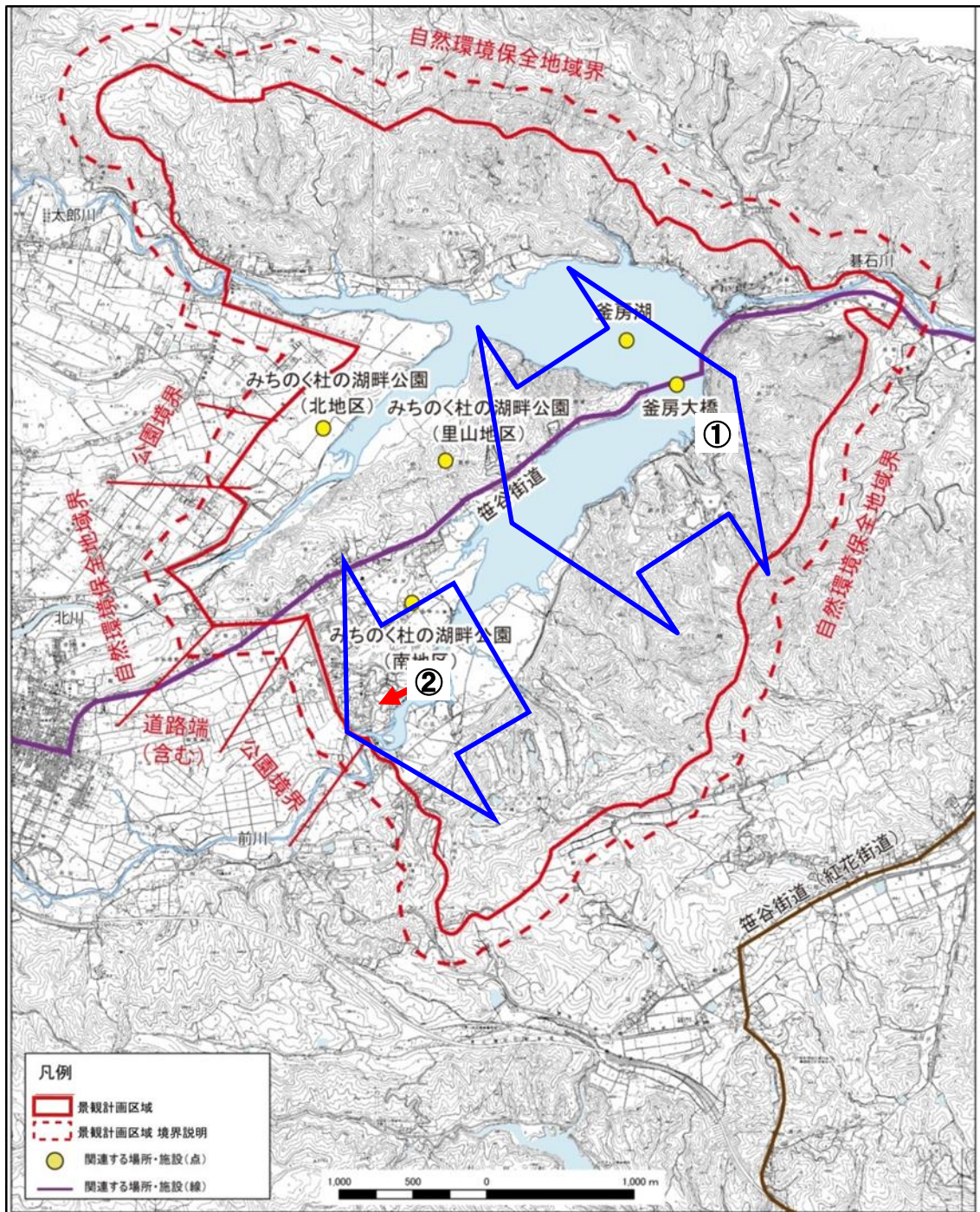
(3) 景観形成基準

釜房湖周辺地区における景観形成基準を以下に示します。

▼景観形成基準

行為	項目	景観形成基準 ※■:地域の特徴をふまえた基準
建築物 ・工作物	配置	<input type="checkbox"/> 地形の起伏になじむ配置とする。 <input checked="" type="checkbox"/> 周囲の自然環境に配慮したゆとりある配置とする。 <input type="checkbox"/> 大規模な施設となる場合には、オープンスペースを有効に配置し、潤いある景観の形成に努める。
	高さ	<input type="checkbox"/> 周囲の自然景観から突出しないよう配慮し、周囲と調和した高さとする。
	形態 ・意匠	<input checked="" type="checkbox"/> 周囲の自然から突出せず、水辺や樹林地と調和した落ち着いた形態・意匠となるよう配慮する。 <input type="checkbox"/> 大規模な建築物等では、長大な壁面を避け、周囲に与える圧迫感を軽減に努めた形態・意匠となるよう配慮する。
	色彩 ・素材	<input checked="" type="checkbox"/> 周囲の自然から突出せず、水辺や樹林地と調和するよう外壁や屋根における素材や色彩に配慮する。 <input type="checkbox"/> 外壁の基調となる色彩は、高彩度の色は避け、色彩を組み合わせる場合には、全体としてのトーンを合わせた統一感のある配色とする。 <input type="checkbox"/> 屋根の色彩は、建物との調和に配慮し、周囲から突出しないものとする。
	設備類	<input type="checkbox"/> 屋上設備、屋外設備は、建築物との一体化や道路等の公共空間から見えない位置に配置する。やむを得ない場合には、通りからの見通しに対する遮へい等を行い、周囲の景観に影響を与えないよう配慮する。
	外構 ・緑化 等	<input type="checkbox"/> 地域の植生に配慮した緑化に努める。 <input type="checkbox"/> 駐車場を設ける場合には、出入口を最小限に整理し、道路境界部や敷地内における植樹等、周囲に閑散とした印象とならないよう配慮する。
開発行為・土地の形質の変更・木竹の植栽伐採	周辺への配慮	<input type="checkbox"/> 周囲の自然環境、植生等に配慮する。
	造成等	<input type="checkbox"/> 既存の地形を活かした造成に努め、切土・盛土は最小限とする。 <input type="checkbox"/> 法面や擁壁等を設ける場合には、周囲の環境との調和に配慮した素材や工法とする。
	既存樹木・樹林等の保全	<input checked="" type="checkbox"/> 釜房湖周辺の既存樹木は可能な限り保全、活用する。 <input type="checkbox"/> 植樹をする際は、周囲の自然植生に配慮した樹種の選択に努める。 <input type="checkbox"/> 伐採後は、自然の植生の再生に向けた措置を行うよう努める。

(参考) 区域で見られる景観



区域で見られる景観	説明
 <p data-bbox="188 582 595 613">①釜房湖・釜房大橋と丘陵地の緑</p>	<p data-bbox="715 246 1066 277">●釜房湖の水辺を望む景観</p> <p data-bbox="715 295 1406 568">釜房湖周辺は、中心部を笹谷街道、北側に県道、南側に町道が通っており、道路を移動しながら広大な水辺と丘陵地の緑が組み合わさった自然景観が見られる。天候によっては遠くに蔵王連峰を望むことができ、来訪者にとって、川崎町、ひいては仙南地域の玄関口となる特徴的な景観を形成している。</p>
 <p data-bbox="188 931 624 994">②みちのく杜の湖畔公園と蔵王連峰 (図内赤矢印)</p>	<p data-bbox="715 631 1023 663">●みちのく杜の湖畔公園</p> <p data-bbox="715 680 1406 954">みちのく杜の湖畔公園は、3地区に分かれた広大な公園であり、キャンプやイベントなどのレクリエーションの場として親しまれている。適正に管理された公園内で見られる様々な景観は、遠景に見える蔵王連峰や釜房湖、周囲の丘陵地などと組み合わせ、多様な自然景観を形成している。</p>

